

私たちもSDGs
取り組んでいます。



「2030年の デジタルシティ宇城」

次世代を担う高校生が、テクノロジーを活用して地域の未来
が発展していくアイデアを立案しました。

アイデアを発想し、
理想の未来をカタチにする

7月、夏休みの小川工業高校
に響き渡るにぎやかな声。

教室では、楽天株式会社社
員による「Rakuten IT
School NEXT」が開か
れ、理想の未来のために今でき
ることのアイデアが飛び交っ
ていました。

このプログラムは、国内10校
の高校生が、SDGsの目標年
度である「2030年の理想の
未来」の実現に向け、テクノロ
ジーを活用した施策を立案し、
実行することを目指すもの。

生徒たち24人は5チームに分
かれ、地元の小川町商店街振興
会会長の宮本晴隆さんや「くま
もと☆農家ハンター」代表の宮
川将人さんまさひとから聞き取った、商
店街や獣害対策の課題を参考
に、住みやすいまち、自然と人

が共存できる未来、移動
が思い通りになる未来な
どのテーマを設定。未来
のあるべき姿や理想の状
態を描き、その実現のた
めにはどのように現在の
のギャップを埋めたらよ
いか、今何をすべきかな
ど意見を交換しながら、
楽天社員のサポートの
下、施策の立案に取り組
んでいました。

地域を知り、その魅力を
引き出そう

もう一つ、生徒がこのプログ
ラムをきっかけに始めたことが。
地元のことをもっと知ろうと
小川町商店街や小川駅前を訪
れ、和ろうそくやかまぼこ作り
などの体験プログラムに参加
し、体験したことをまとめ、ホー
ムページや地図を作成。町の魅
力発信に取り掛かり
ました。地域の活性
化につながるこの取
り組みは、目標11や
17になります。

共にアイデアを改善し、
解決につなげよう

10月19日、自分たちのアイ
デアが地域にとって長期的にいい
影響を及ぼせるのか、テクノロ
ジーを効果的に活用できてい
るかなど、その有用性を検証す
る生徒たちの姿がありました。
それまでに、週に1回のペース
で楽天社員とテレビ電話で改善
点を話し合ったり、アンケート
やインタビューなどを行ったり



チーム全員で集合写真



3



2



1



7



6



5



9



8



4

1 チームごとに分かれて、理想の未来を付箋紙に書き出し、
情報を整理する生徒たち 2 真剣な面持ち 3 花を売るア
プリを考え、意見を出し合う 4 理想と現状のギャップを
埋めるアイデアを書き出す 5 商店街の現状を伝える宮本

さん 6 チーム力を高めるために、バスタやテープ、ひも
などを使ってタワーを作る「マシュマロチャレンジ」に挑戦
7 アイデアを絵で表現した宣言シートを発表 8 アイデア
を磨く 9 ドローンと携帯を使って募金できるかを検証



一日の振り返りには、良かったこと
やトライしてほしいことを伝え合う



11月6日の校内発表会を経
て、代表に選出されたチームは、
12月14日に東京都世田谷区で行
われる成果発表会で改善したア
イデアを発表し、共有します。
次世代を担う生徒たちが柔軟
に発想することが、明るい未来
へとつながっていきます。

してきた生徒たち。この日は、
進捗を発表。良い点や改善点を
互いに伝え、アイデアに磨きを
かけていました。赤ちゃんの心
の声を聞くことができるアプリ
を検証していた「1／2サウス
ポー」チームの斉藤優介さんは、
「宇城市は子育てしやすいまち
を宣言しているの、その分野
をもっと伸ばそうと思った。指
摘を受けたことを改善したい」
と意欲を見せていました。